

今月のみことば 2026年3月

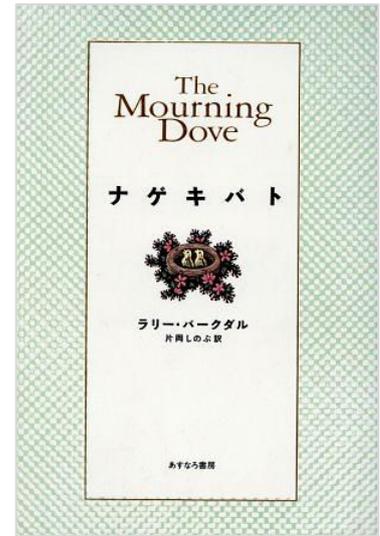
キリストは自ら十字架の上で私たちの罪をその身に負われた。それは私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。
(ペテロの手紙第一2章24節)

本の紹介シリーズ ナゲキバト

ラリー・バークダル著 / あすなろ書房

「ナゲキバト」は、悲しげな啼き声が名前の由来になっている鳩です。主人公のハニバルという少年が、散弾銃で誤ってナゲキバトの母鳥を殺してしまいます。

この母鳥のそばには2羽のヒナがいました。ハニバルは9歳の時に事故で両親を亡くし、祖父に育てられています。この時、祖父は父鳥だけでは2羽を育てられないから、とハニバルに2羽のうちの1羽を殺すように言います。彼は泣きながら1羽のヒナを選びました。このエピソードが、次の物語に繋がります。



祖父がハニバルに語ってくれた物語はある兄弟と父親の話です。貧しい生家から持ち出したお金を放蕩で使い果たした末に、弟は牢に入れられました。それを知った兄は畑を売り払って保釈金を作り、遠い町まで迎えに行きました。

ところが帰宅したのも束の間、弟の癩癩で兄弟共に火事に巻き込まれます。屋根が崩れ落ちる寸前、火の中に飛び込んだ父親が助けられるのは、どちらか一人。善良な兄か、どうしようもない弟か。

究極の選択を迫られた父親が助けたのは、弟でした。生きるということの尊い意味を学ばなければならないのは、弟の方だったから。最後の場面で、それを語る祖父こそがこの弟であったことをハニバルは知るので。ハニバルにたくさん大切なことを教えてくれた祖父は、悔い改めて人生をやり直した罪人でした。

罪のない兄が弟の罪の結果、死んでしまいました。この兄が十字架で死なれたイエス・キリストと重なります。人間は父なる神の前に生き直さなければならない愚かな弟息子です。神は私たちにやり直しのチャンスを与えるために、罪なき神の子イエスを死に引き渡しました。イエスが十字架で死なれ、3日目に復活したのは、私たちに新しい人生と永遠の命を与えるため、と聖書に書かれています。この希望の約束が聖書の中心的メッセージであり、福音(グッドニュース)なのです。

あなたも聖書の語る良い知らせに耳を傾けてみませんか？(T)